

すぐ田舎 すぐ都会

農のある暮らし 愛知県しんしろ新城市



しんしろマップ

愛知県で2番目に面積が広く、地域によって生活環境が異なります。

新城市は、「新城地域」「鳳来地域」「作手地域」に分けられ、市街地から山間地域、高原地域など、自分に合った生活スタイルを選択することができます。

新城市の概要（全域）

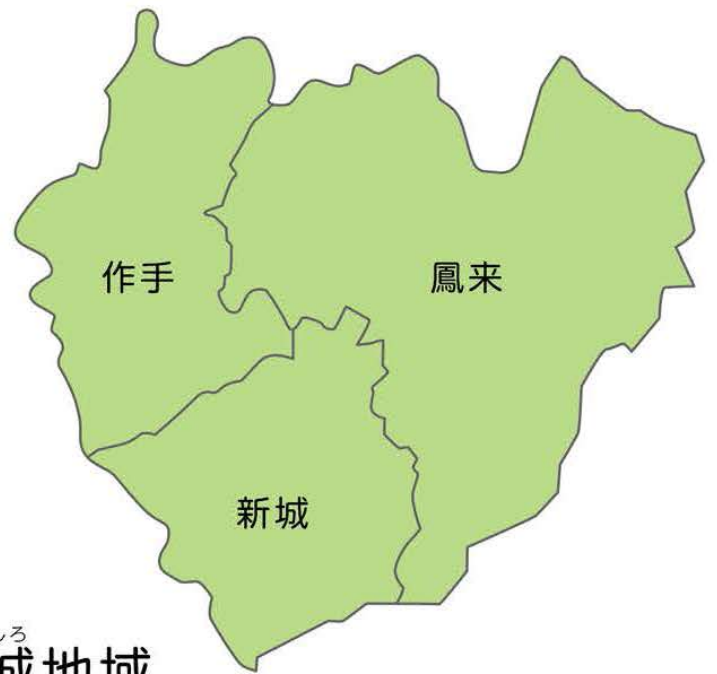
人口 42,784人

世帯 17,716世帯

面積 499,23km²

※2024年4月1日現在

まずは遊びに来てね！



しんしろ 新城地域

標高50mの市街地があり、スーパーや薬局など生活に必要なものは比較的近くで購入できます。

人口 31,420人

世帯 12,821世帯

おすすめスポット 桜淵公園



ほうらい 鳳来地域

標高70mから400mで、山や川に囲まれた地域で自然を活かした観光名所が多くあります。

人口 9,258人

世帯 3,959世帯

おすすめスポット 四谷千枚田、長篠合戦古戦場跡



つくで 作手地域

標高約500mの高原地域。農業が盛んで、年に数回積雪があります。

人口 2,106人

世帯 936世帯

おすすめスポット 巴川の紅葉



特産品



鳳来牛

市内の認定生産農家が育てた肉質等級4等級以上の幻のお肉！

シーズン：周年

奥三河 ほうれん草

周年栽培で1年中食べられます。肉厚で栄養満点！

シーズン：周年



しんしろ茶

普通煎茶の生産量愛知県内有数！

シーズン：4月下旬～8月上旬



菌床しいたけ

肉厚でジューシー。

シーズン：周年



ミネアサヒ (お米)

米の食味ランキングで最高評価を受賞！

シーズン：9月中旬～10月下旬



巨峰

種なし巨峰発祥の地。

シーズン：7月中旬～9月上旬



八名丸さといも

きめ細かな肉質と滑らかな舌触りが特徴。

シーズン：10月下旬～12月下旬



梅

自家用の梅酒や漬梅の原料として人気！

シーズン：5月下旬～6月下旬



いちご

大玉でジューシー！「紅ほっぺ」が主力品種。

シーズン：11月中旬～6月下旬



柿

主に「早秋」「次郎」「富有」の3種類を栽培

シーズン：9月下旬～12月上旬



じねんじょ 自然薯

香り高く粘り気が強いことが特徴！

シーズン：11月下旬～12月下旬



ふるさと納税



観光



特産品は、道の駅やJA産直売り場、ふるさと納税からお楽しみいただけます。

新城市の約83%は、山林が占めています。

自然豊かな新城市では、家庭菜園で農業を楽しむ方も多くいます。家庭菜園といっても、庭先でプランターによる栽培から農地を借りて栽培するなど様々な楽しみ方があります。



本格的に農業を始める前に農業体験をしてイメージをしてみるのもいいですね。



農業体験

しんしろ農業塾

農業の基礎（栽培方法から販売方法まで）を1年のカリキュラムで学びます。農業未経験者の方も安心して受講できます。

受付期間は4月～5月

☎0536-23-7632（新城市役所 農業課）



こども農学校

市内在住の小学生を対象に1年間の農業体験を通じて「食」と「農」の大切さ等を学びます。

☎0536-22-4135（JA愛知東 組合員課）

トウモロコシ狩り

道の駅つくで手作り村に隣接する農地で開催。

体験時期は7月下旬

☎0536-37-2260（農林業公社しんしろ）

体験内容や時期は毎年異なりますので、詳細はQRコードからご覧ください。



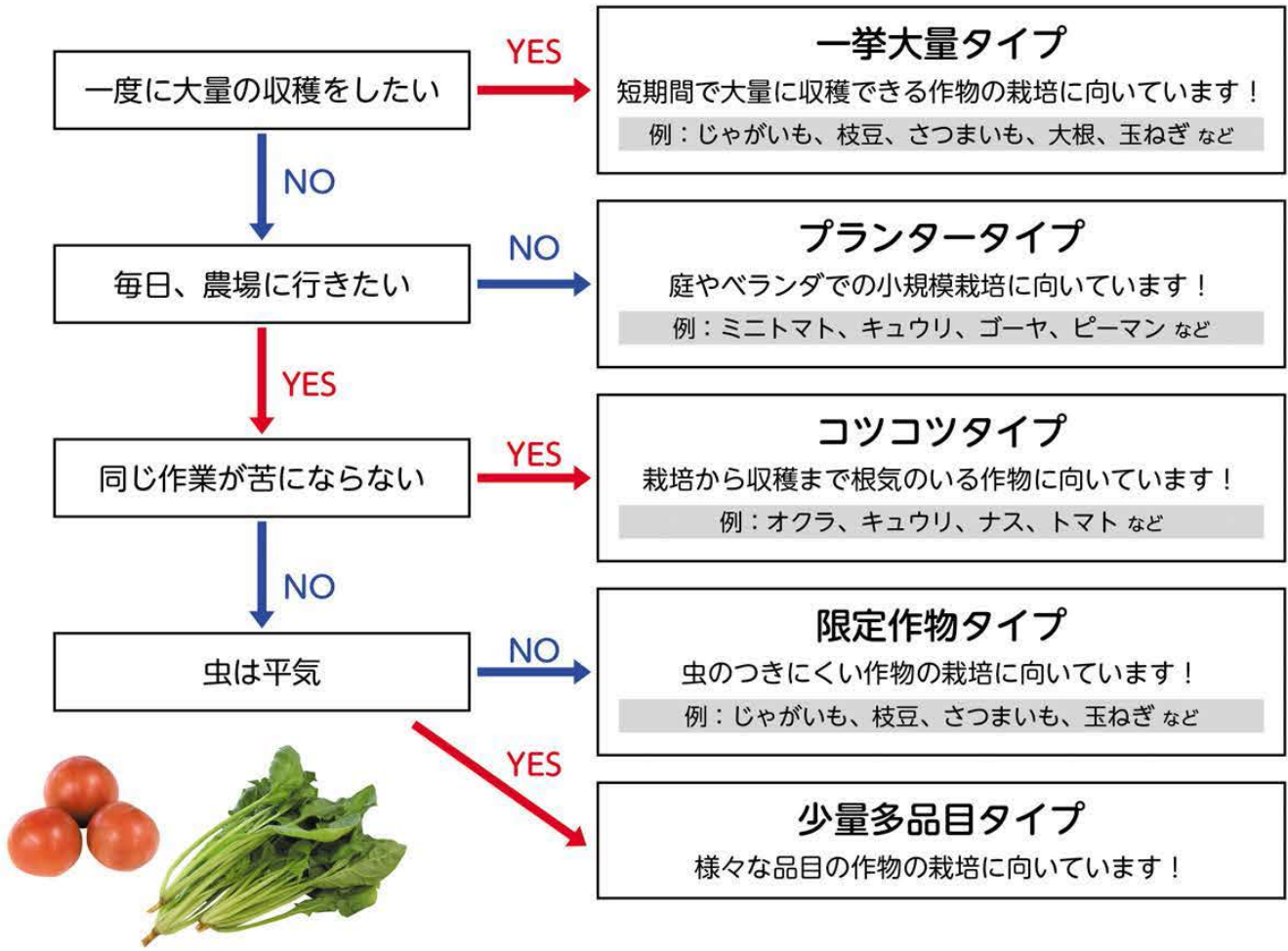
まずは、農業体験から始めてみませんか？



おすすめの野菜が分かる！？

心理テスト

あなたにピッタリの野菜が分かるかも！？
野菜によって栽培方法は変わってきます。まずは、自分に合った野菜を探してみましょう！
※この心理テストに根拠はありませんのでご注意ください。



家庭菜園をされる方へ プチ情報

苗は、種より購入費用がかかるけど、失敗が少なく初心者向きです。栽培をじっくり楽しみたい方は種からチャレンジしてみるのも良いですね！



農地法による農地の下限面積が撤廃されたので、農地を買ったり、借りたりしやすくなりました！



鹿や猪等による農作物被害に遭う可能性があるのので注意してね！！

良い作物を作るには土づくりが重要ですよ！

作手地域は冬になると作物が凍結してしまうことがあります。



\ まずは、ご相談ください！！ /

サポートの活用



「農地の契約は農林業公社におまかせ！」

…… TEL : 0536-37-2260

農地賃貸契約は、農林業公社しんしろが無料でサポートします！

「しんしろ農業塾を活用しよう！」

…… TEL : 0536-23-7632

約1年のカリキュラムで、栽培の基礎知識から農業機械の実習、販売方法までの一連の流れを学ぶことができます。未経験者大歓迎！！

「鳥獣害対策を考えよう！」 … TEL : 0536-23-7632

場所によっては、農作物が鹿や猪等、鳥獣害の被害に遭うことがあります。新城市では、電気柵等の鳥獣侵入防止資材の購入に対する一部補助をしています。「新城市有害鳥獣防除事業補助金」をご活用ください。

「新規就農にチャレンジ！」 … TEL : 0536-23-7632

イチゴ、トマト、ほうれん草（全て施設栽培）で新規就農者として独り立ちして営農を開始するためのサポートや支援をしています。

アグリチャレンジ新城▶



リアルな田舎暮らし

都市部から地方へ移住を希望されている方の多くは理想とする田舎暮らしをイメージされていると思います。

しかし、いざ田舎へ移住すると理想と現実のギャップを感じることがあります。

リアルな田舎暮らしを少しご紹介します。

あいさつ

田舎へ行けば行くほど知らない人でもあいさつをする傾向があります。

そこから、お互いを理解し、関係性を構築することができます。



車が必須！

山間部へ行くほど交通手段が限られます。

車があると便利です。

一家に1台ではなく、一人1台が当たり前となっています。

地域の付き合い

田舎には地域に住む人たちが協力し合いながらコミュニティの維持や景観を守る活動を行っています。お祭り、消防団、奉仕作業、集会など地域によって付き合いは様々ですが、参加することで仲間が増えます。地域の付き合いといっても月に1~2回程度です。

1回につき2~3時間程度が多く、年間で考えると数日間という地域が多いので頑張って参加してください。

農業×お土産開発



半農半Xに取り組むMさん。現在は、農業をやりながらお土産づくりと販売を行っています。農業を始めたきっかけは、以前から地域課題の一つが農業だと感じていたことと、地域の方からの「農業を手伝って欲しくないか」という一言から。

農業の知識や技術はやりながら学んでいくと始めたが、後から振り返れば何も知らなかったからチャレンジできた面もあったかもしれないとのこと。

現在では、周りの方々から様々なアドバイスをもらい、「多少はできることとや知識も増えたかな」と話してくれました。地域の方が農業用機械を貸してくれることもあるそうです。

農業の大変さをたずねると「自然（雨・風等）は手加減してくれないこと、作物は待つてくれないこと」の二つをあげてくれました。

お土産物づくりも、一つの商品を開発してリリースするのがどれだけ大変かということを知らなかったからチャレンジできたと話します。

新城市には長篠・設楽原の戦いという全国的に有名なコンテンツがあるので、長篠・設楽原の戦いに関連したお土産づくりを通して魅力を伝えていきたいとの思いをもって取り組んできたとのこと。

自分の企画した商品が店頭に並び、お客様が手に取っていただいている場面を直接見ることで、地域に貢献できている実感を覚えているそうです。

これからも、新城市や奥三河地域の魅力が詰まったお土産をさらに増やしていきたいそうです。



お土産の詳細は
↑こちら↑



プランター栽培を楽しんでいます！



子どもがこども園に入園する時期に新城市にUターン移住してきたAさんご家族。現在は、自宅の庭でプランターを使って野菜等を栽培しています。

Aさんは、食べられるものを楽しみながら栽培したいということで、御主人の好きな唐辛子をはじめ、バジルやコリアンダー、イチゴ、インゲンマメ等を栽培しています。



プランター以外にも、自宅周辺の空き農地に果樹を植樹して実がなるのを楽しみにされています。

収穫した野菜を出荷することは考えておらず、ご家族が消費する用に栽培しているので、気楽に栽培を楽しまれています。子ども達が収穫したり、収穫したものを食べてくれるのが嬉しく、子どもも観察したり学びにも繋がっているとのこと。

新城市に住んで良かったと感じることは、庭がある家に住んでいるので、夏にはプールやバーベキューをして遊べる等、子ども達と外で遊べるのだそうです。大きな声を出しても大丈夫なことや、子どもも自然に触れる機会があることが嬉しいとのこと。

休みの日には、市内の山へ登山に行ったり、自然を満喫できるスポットが多くあるので、親子でお出かけするにはおススメとのこと。お子さんと一緒に運動することも健康増進も兼ねて楽しみの一つとして楽しんでいらっしやいました。



仕事をしながら農業を楽しんでいます！



三重県出身のTさんは、仕事の都合で近隣市へ就き、自然が多くある所に住みたいという思いがあったことから新城市へ移住されました。市内の直売所へ買い物に行った際に知り合った方から農地を借りることができたので、仕事の合間に農業を楽しんでいます。ニンニクやジャガイモ、オクラ等の自家用で使用する野菜を栽培されています。

栽培方法は、農薬も肥料も使わずに栽培する自然栽培という方法で、農地を貸してくれた方から自然栽培の話聞いて興味があり始めてみたそうです。

農業は素人だったので、農家さんのところで収穫の手伝いをしながら勉強をして、プランター栽培を試みたくれど上手くいかず、畑へ切り替えてチャレンジされています。現在はネット動画を見て栽培の知識を得ているそうです。

実際に農業を始めて、自分が育てている野菜は美味しく、楽しみながらできているとのこと。自然栽培は失敗することもあるけれど、楽しみながら専業農家としてチャレンジするのはお客さんの求めるものを栽培するというプレッシャーもでてくるので、仕事をしながら休日等に野菜作りを楽しみたいそうです。

新城市は畑だけでなく、自然も多くあって良い地域だと感じているそうです。

自然栽培の栽培記録等をご覧ください



Instagram
↑こちら↑



飲食業から専業農家へ



近隣市で飲食業に勤めていたHさん。コロナ禍をきっかけに離職して、両親が移住していた新城市へ移住されました。

以前から田舎暮らしに憧れを抱いていましたが、田舎過ぎても買い物などが不便になると思ったことと、両親が先に新城市へ移住していたことが移住先の決め手となったそうです。

移住して間もなく、農業の栽培から出荷までを学べる「しんしろ農業塾」を受講し、今では認定新規就農者となってイチジクとブドウの生産を行っています。

イチジクは両親が小規模でもやっていたこと、ブドウは農業塾とは別にブドウ農家さんの下で一年間の研修をして技術を習得されました。

しかし、実際に栽培してみるとわからないことが多く、インターネットや本で勉強したり、先輩農家さん等から教えてもらっているとのこと。先輩農家さんをはじめ、周りの方々がとても良い人が多くて、日々助けられていると感謝されていました。

農業は実践してみないとわからないことが多いと実感されており、もし、専業農家になろうと考えている方がみえたら、農業は休日が決まっているので会社員とのギャップを感じると思うとのこと。しかし、やりたいことをやれるという楽しさがあるともおっしゃられています。

今後、若者が農業を始めたいと思ってもらえるよう、農業でも生活ができるという夢を与えられたら嬉しいとのこと。

以前は農作物を使う側におり、今は農作物を作る側となっているので、双方の求めているモノが分かることを活かして頑張っていきたいそうです。



周辺地域情報

車の所有は一人1台という状況です。休日には市内の自然を満喫するほか、近隣で様々なことを楽しむこともできます。また、新東名高速道路を利用して関東圏や関西圏へお出かけすることもできます！





移住定住ホームページ 「すぐ田舎 すぐ都会」

住まいのことや仕事のこと、
暮らしの情報は、
まずはこちらをご覧ください。



特産品販売場所

- ・道の駅 もつくる新城
つくで手作り村
鳳来三河三石
- ・JA産直売り場
- ・その他スーパー

新城市移住定住公式Instagram
「しんしろライフ」



ACCESS

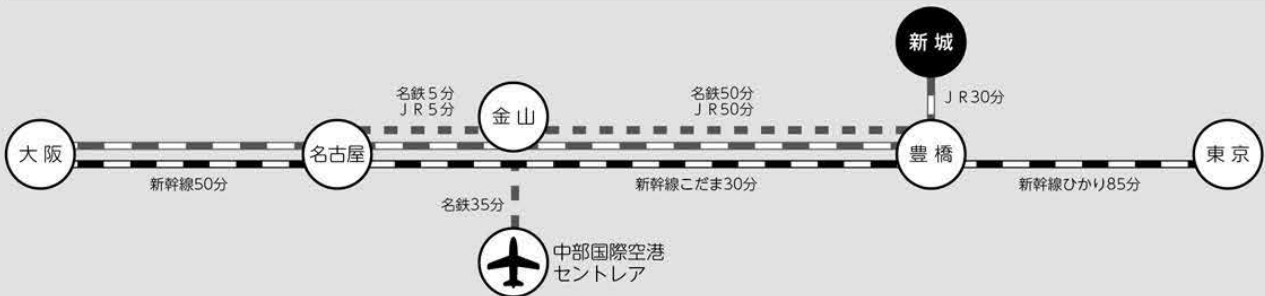


車の場合

- ・名古屋から約45分
- ・東京から約3時間
- ・大阪から約2時間45分



鉄道の場合



新城市 すぐ田舎すぐ都会 🔍

web



Instagram



新城市 若者議会 🔍

web



Instagram



新城市 アグリチャレンジ 🔍

web

